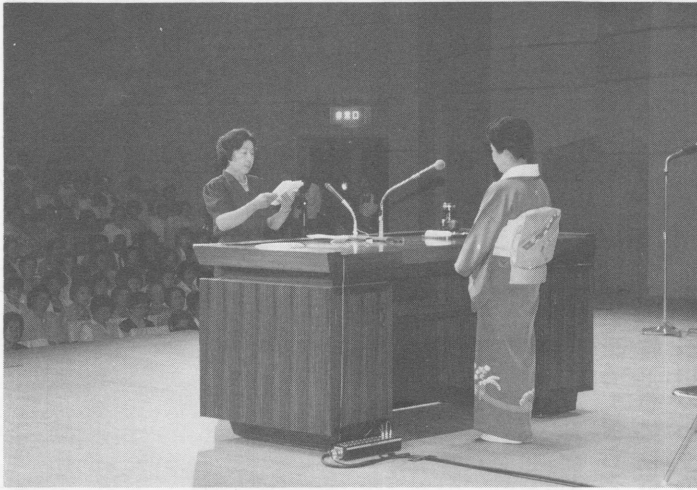


よりだ寺福廣

16号

念仏の輪を広げよう

お裏方さま迎え 仏教婦人大会開く



昨年六月十八日、真宗仏光寺派新潟教区主催の仏教婦人大会が弥彦の文化会館で開かれた。同じお念仏で結ばれた千二百余名の同行が大ホールにあふれ御法（みのり）にあうよろこびをわかち合った。お裏方さまは「生まれた始めがあれば死の最後がくる、会った始めがあれば別れていく最後があること、それはよそごとでなく自分の上にもくることが必定なのでございます。ここに宗祖聖人は永遠に末とおったお念仏のよろこびを身に受けとめるようにとお教え頂いております。心の目に映った見守られていると頂けた世界こそがお念仏の世界でございます。どうぞこのお念仏を心の支えとして人生のいろいろな苦悩ものりこえていく力を頂いて下さるよう念願いたします。」

（要旨）とおことばを述べられ参加者は一様に深い感銘を受けた。

次いでフランスのパリで生まれられ十四歳のとき図

書館で歎異抄（たんにしょう）を読み、八親鸞おじさんにだまされても後悔しません。ついでまいりますVの一本道を歩まれ二十歳のとき、はるばる海を渡って日本にやってこられた藤田ジャクリン先生の「親鸞さまとの出遇い」と題する記念講演にうつった。ナムアミダブツではじまりナムアミダブツで終わった先生のお話は、「海の内外（うちと）のへだてなくみくにの旅をともしするわがはらから」の親愛の情感で聴衆をものやわからかに不思議にほのぼのとしたぬくもりの中に包み込んだ。

最後に参加者を代表して鈴木テルさん（当寺婦人会）がステージに上がり、お裏方さまの前で「県内各地から会員の皆様が一堂に集い「深き御法にいまつる身の幸」を確かめ会う御縁を頂きましたことは皆様ひとしく喜びとすると、永遠に生きる真実のみ教えがわが身にひびいてまいります。皆様と手をたずさえてお念仏の輪が、さらに一層ひろがってまいりますように精進することをお誓いいたします。」と力強く誓いのことばを述べて文字どおり盛会のうちに閉会した。

当寺からは地元でもあることから八十一名の参加者が貸切りバスで大会にはせ参じ真宗仏光寺派婦人会連盟の一翼になった。なお参加者には「旅の人パリー京都」（ジャクリン）の小冊子が記念品として配布された。

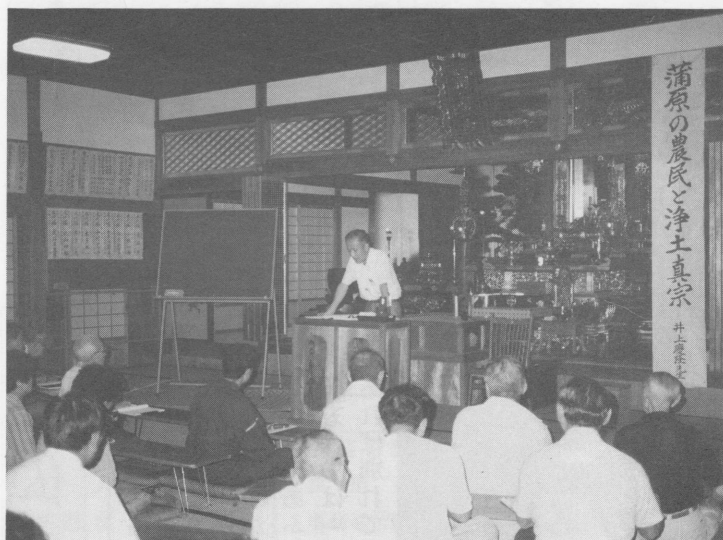
写真は「誓いのことば」の鈴木テルさん

聞法会第百五十回例会記念講演会

蒲原の農民と浄土真宗

郷土史家 井上慶隆先生

真宗寺院の成立 西蒲・燕では七割が真宗寺院、上杉氏が戦国の風雲に乗り上洛をうかがうに当たり一向宗と手を結ぶに及んで真宗寺院が門徒と共に北陸や北信濃から移住してきた。広福寺は能登からで柏原山の山号は前



に住んでいた地名に由来する。

新天地の開拓 戦国時代土木技術がかなり進んでおり秀吉の水攻めは綿密な計算で成功した。信玄は金堀り技術者を戦列に加えていた。黒滝城のような山城は攻めにくい、弱点は水の補給、水を抜いて一兵も損わずに落城させる戦略。これが泰平の世となると土地改良技術と結びつき農民の開拓が始まる。

水との闘い 享保19年塩津潟から川を掘って海に流し1930ヘクタールの耕地を作った。シヨーンズが紫雲寺となり同名の寺もできた。低湿地で悩んだ西蒲では文政3年水路をつくる計画を出したが領主がなかなかOKしない。そこで庄屋を中心に農民が自分たちの力を結集して起ち上がった。自分たちの田んぼをよくしようと資力も労力も出し合い手弁当で難工事に挑戦し川を上下に流す高度の技術で新川をつくった。約二百万人の手間をかけた記録がある。大河津分水の大工事は享保年間に計画されたが、明治の新政府によってようやく着手された。

働き者の蒲原農民 一向宗門徒農民のねばり強さをジッと見ていた男がいた。越後の代官竹垣直温である。下野に転勤したとき北関東では間引きの悪習があった。そこへ寺と共に越後からの移民をはかった。大名では白河藩主松平定信が越後から若い娘を迎えて育てた。秀吉のころ39万石、それが明治に114万石

と三倍にもなる勤勉さを評価してのこと。浄土真宗地帯―念仏の大地―で後生が定まっていた蒲原農民の底力である。

地方で高水準の学塾 粟生津の長善館、片貝の耕読堂、柏崎の三余堂など農家の子弟のほか寺院の子弟が漢学を学んだ。妙好人も輩出する地域で教化に当たる寺院の子弟もまた熱心に学問にうち込んでいったのである。

毎月20日に 聞法会例会

例会はこの三月第百五十六回目を迎えることとなります。正信偈と歎異抄の講話を終わって一昨年十月からお経の練習とご和讃の講話が続いています。舌々正信偈を終わります。行譜正信偈を「五線譜」をテキストにして練習しております(心光寺住職担当)。ご和讃



は「常用聖典」にあるものをとり上げて当寺住職が講話を続け、時に今日的な問題と真宗の教えについてふれることもあります。年に一回はイベントを計画します。講話後のひとときは気軽な語らいの広場となります。新規の会員のご参加をお待ちしております。

いのちの回復

本当の人間に
なるために

教区主催第3回仏教講演会ひらく

昨年十二月十日白根市の吉運堂で開かれ約二百名の聴衆が詰めかけ長崎県からおいでの方下哲先生のお話に熱心に耳を傾けた。当寺から十八名の方々が参加されました。以下そのお話の骨子をお伝えします。

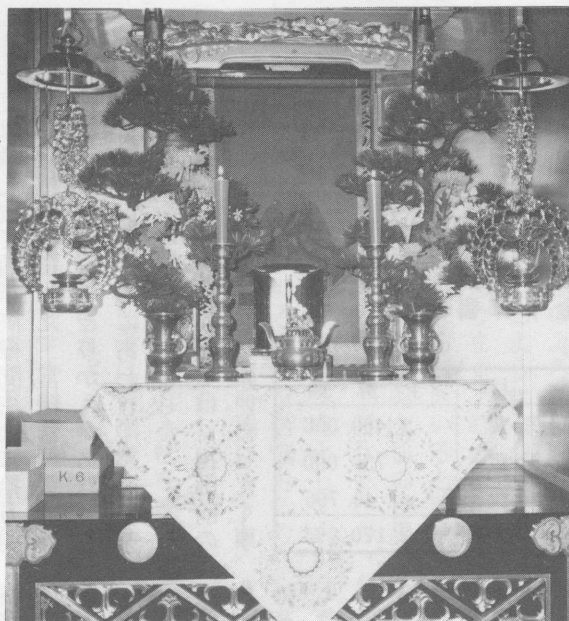
一切の生きとし生けるものを生かし支えているはたらきをいのちとすれば、いのちの回復とは「人間になる」ということ。本当の人間になるためにはもう一度生まれ直さなければ。仏法を聞いて本願にめざめ念仏申す身になるという



ことが本
の人間誕生
なのです。
人も動植物
も根っこは
同じ如来の
いのちを頂
いて生きて
いる。いの
ちを共にす
るもの同士
のうなずき
がやさしさ
になる。喜

びと悲しみを同じくする世界におけるはずなのに、いのちにそむき、いのちを殺し、いのちを傷つけている。親鸞聖人はそれを罪惡深重と受け止められた。一日生きていることは他のいのちを殺し傷つけているということ。大根様、おネギ様、ニンジン様、それを刻んでいのちにする。人間は人の前を横切らずには生きていけない。人に迷惑をかけずには生きていけない存在なんだということ。

いのちにそむく方向は孤独で不安です。共にではない。しかし孤独不安の真ただ中にいる者と呼ばけるものが。いのちの願いに生きよと。名号になって呼びかけて下さる。

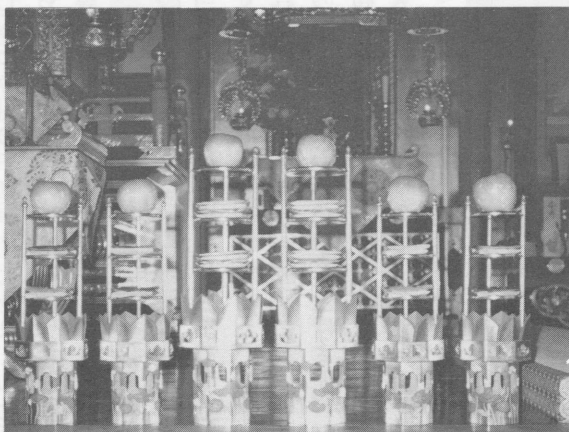


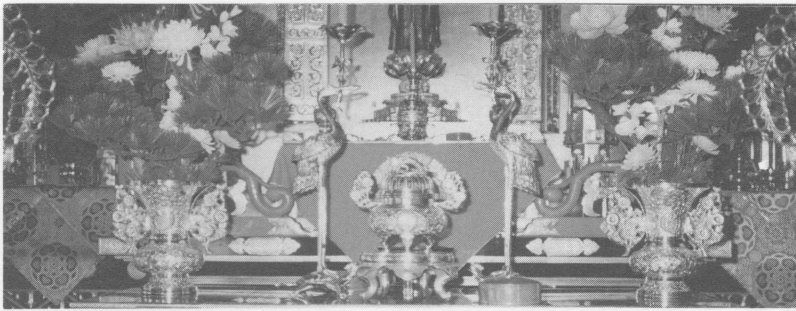
そむく私であったと我が身が照らされる。心の底から安心できる世界がお念仏の中に満たされていく。その時「本当の人間になる」ということ。この世で正定聚にしてみらうことが本当の人間になることだと思ふのです。

お莊嚴

しょうこん

昨年しょうこんの法要にあわせ祖師前の御影堂型輪灯一對を新調しました。また広沢広司様の御寄進で下す板が整いました。その後平岡ミヨ様（麓二区、清助殿）の御寄進（一金貳拾万円）で三尊の供筒段盛三対を方立つきで揃えることができました。内陣のお莊嚴（おかざり）が立派に整備され本堂にありがとうございました。





I 平成元年度 当寺勸金決算書

〔収入の部〕

科 目	決 算 額
勸 金	2,141,000
雑 収 入	49,612
繰 越 金	108,556
計	2,299,168

〔支出の部〕

科 目	決 算 額	摘 要
寺務経常費		
負 担 金	641,410	本山護持金・ともしび
事務通信費	46,643	複写・はがき切手
会 議 費	81,310	世話方・総代会議
教 化 費	283,400	御布教・聞法会補助
営繕管理費	304,290	屋根修理・火災共済
門徒交際費	161,320	御本尊下付・見舞・謝礼
小 計	1,518,373	
事 業 費	750,000	中尊前 五具足
繰 越 金	30,795	
計	2,299,168	

負担金の内訳

広福寺分	484,710
心光寺分	135,700
ともしび	21,000

II 平成2年度 当寺勸金予算書

〔収入の部〕

科 目	予 算 額
勸 金	2,100,000
雑 収 入	40,000
繰 越 金	30,795
計	2,170,795

〔支出の部〕

科 目	予 算 額
寺務経常費	1,400,000
事 業 費	730,000
予 備 費	40,795
計	2,170,795

定例総代会議決議のお知らせ 去る二月四日の定例総代会議で別表ⅠⅡの決算書、予算書の案がそれぞれ承認されましたのでお知らせ申し上げます。御本山と菩提寺のおもりたて、おとりもちに寄せられました門徒各位の御懇念まことにありがたく厚く御礼を申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年度は教化費で前年同様聞法会に拾万円の補助金が交付されました。営繕管理費で火災共済の増額、消火器のとりかえがありました。事業費では自坊法要にあわせ中尊前の五具足（阿弥陀堂型）を新調しました。今年度の取り組みとしては、祖師前の五具足、御代前の三具足を新調いたしました。事

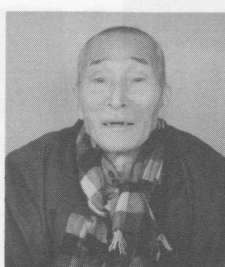
業費に七十三万円の予算が計上されました。いずれも仏光寺派末寺の規格に合った御影堂型の仏具となっております。

一戸当たり八千円の勸金

今年も昨年同様

一戸当たり八千円の勸金を八月までに上納して頂くことが申し合わされました。世話方のおられない地区は住職がお願いに参上いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

勝手頭の菅保さんなおカクシヤク 寺の行事には欠かさず世話をお願いしている菅保（すがたもつ）さん、昨年米寿のお祝いをすまされ



ました。寺にとってなくてはならぬ人、本当にありがたいことです。

長寿者（90歳）に 本山では長寿者にお祝されることになりました。呼び年九十歳から

申請できることになりました。今年は「明治34年生まれ」の方が呼び年で九十歳です。年齢を証明できる保険証など寺に持参して頂ければ写しをとって本山に申請いたしますのでお気軽にお申し込み下さい。